青和学園だより

令和２年１１月２日
相模原市立青和学園
学校便り　11 月号（6）
校　長　　小畑　弘文

義務教育学校：コミュニティ・スクール

《学園教育目標》

自他と地域を愛し、目的と希望を持ち、目標に向かってたくましく生きる、自立した学園生の育成

青和学園ホームページ：**http://www.sagamihara-seiwa-c.ed.jp/**

第１回青和祭体育部門開催　学園生が躍動、感動の一日

～学園生が自分たちで新たな歴史を築きました～

１０月２４日（土）、令和２年度第１回青和祭体育部門を開催しました。前日は雨で、校庭での練習ができなかったのですが、当日は、天候が回復し、時折、太陽が顔を出し青空も広がりました。

休校期間があったため、授業時数を確保しながら、青和祭開催に向けて準備をしてきましたが、様々な課題もありました。１年生から９年生までが揃って学校行事に取り組むのは、この青和祭が初めてです。種目をどうするか、どのように学年を組んでいくか、新型コロナウイルス感染防止策をどうするかなど、先生たちも頭を悩ませました。ただ、職員間で確認したのは、「子どもたちが行事をやらされていると思うのではなく、子どもたちが自分たちの行事と捉え、子どもたち自身が考え行動できるようにしよう」ということです。

そのために、事前に実行委員などに、どのようなに準備を進めていくか、どのようにほかの学園生に教えていくか、指導をしていましたが、全体で練習する際には、子どもたちが中心となって、お互いに指示を出しながら、てきぱきと練習に取り組むことができるようになりました。先生たちは、その様子を見守り、励ますようにしていました。

応援練習においては、初めての１年生もいたり、大人数で行う踊りの振り付けもあったりするなど、指導する実行委員の学園生たちも苦労していたようですが、徐々に掛け声や振り付けが揃うようになり、赤、白の各色のまとまりが強くなっていくのが目に見えるようになりました。

前期課程の学園生に丁寧に教える後期課程の学園生

前期課程、後期課程の学園生が一緒に準備をしました

さて、迎えた体育部門当日。足を高く上げ、腕を大きく振って、学園生が堂々と入場してきました。そして、かわいらしい１年生の開会の言葉、胸を打つ青和祭副実行委員長の言葉、気合いの入った応援団長、副団長の言葉がありました。

ラジオ体操に始まった種目は、徒競走、５年生～９年生のリレー、１年生～４年生、７年生～９年生、１年生～６年生の各まとまりでの種目、全学園生での玉入れがあり、午前の部が終了しました。午後の部は、迫力ある台詞、ビシッと決まるポーズ、大きな拍手・掛け声、創意工夫されたダンスなどがあった、全学園生による応援合戦でスタート。第１～第３ステージまでの各種目があり、

最後は、代表選手による色別対抗リレーでフィナーレを迎えました。

笑顔で退場する、第２，第３ステージ全員リレーに出場した学園生

迫力があった応援合戦　各色の創意工夫も見事でした

青和学園では、「自立した学園生の育成」をめざしていますが、**自立とは、「自分でやるべきこと、やりたいことは、何かを考えて、自分から行動できること。たとえ、失敗しても他人のせいせず、できるようになるためには、どこを直せばよいかと考えて、さらに挑戦できること」**と本学園では、定義しています。まさに、このような姿が練習を通じて見られ、当日は、それが最高潮の形として現れていました。

開会式でも述べましたが、今年は、新型コロナウイルス感染のため、４月、５月は臨時休校、６月から分散登校が始まり、学園生が全員揃って登校したのは、６月１５日からでした。それから、１７週間、約４ヶ月程度の期間で、これほどまでに、学園生は大きく成長したのです。

「最初はできなくても、粘り強く繰り返してやれば、できるようになる」「お互いを励まし、勇気づけることが、心の栄養となる」このようなことも学園生が学んだのではないでしょうか。

保護者の皆様には、感染予防のための対策にご理解・ご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。おかげさまで、滞りなく無事に第１回青和祭体育部門を終えることができました。

自分たちの力で、体育部門をやり遂げ、新たな青和学園の歴史を築いた学園生の成長を、保護者・地域の皆様とともに喜びを分かち合い、これからも皆様とともに学園生を支えていきます。

昨年度までの青根小中、青野原小中の保護者、両地域の皆様のご協力で青和祭体育部門のトロフィー、楯を購入することができました。皆様、ありがとうございました。

11月14日(土)青和学園開校記念式典 9:20-11:30

すでにお知らせしたとおり、当日は各ご家庭１名のみの参加となります。また、報道機関による取材があるかもしれませんので、ご承知おきください。